

2016年12月22日

各位

小野薬品工業株式会社

ライガンド社とOmniAb[®] 技術に関するライセンス契約を締結

小野薬品工業株式会社（本社：大阪府中央区、代表取締役社長：相良暁、以下「当社」）は、米国 Ligand社（本社：米国サンディエゴ市、最高経営責任者：ジョン・ヒギンス、以下「ライガンド社」）との間で、当社がライガンド社の遺伝子改変動物 OmniRat[®]、OmniMouse[®]、OmniFlic[®] を使用して完全ヒト型の単一特異性または二重特異性抗体を創製する権利を取得するライセンス契約を締結しましたので、お知らせします。

本ライセンス契約に伴い、当社はライガンド社に対して、これらの遺伝子改変動物を使用するための年間アクセス料を支払うとともに、遺伝子改変動物を使用して創製した抗体（OmniAb[®] 抗体）を開発・販売する場合には、開発の進捗に応じた開発マイルストーンおよび上市後の売上高に応じたロイヤルティを支払います。なお、創製した抗体の研究・開発に伴う費用は当社が負担します。

当社の執行役員研究本部長である中下広は、「当社はヒト型抗ヒト PD-1 モノクローナル抗体『オプジーボ』と同様にこれからも病气や苦痛と闘う患者さんの希望となる新薬を提供していきたいと考えています。当社はライガンド社が有する遺伝子改変動物を使用する権利を取得することにより、当社のこれからの抗体医薬品の創製研究を大きく飛躍させるものと期待しています。」と述べています。

ライガンド社の最高経営責任者であるジョン・ヒギンスは、「ライガンド社の OmniAb[®] 技術に対するアクセス権を取得することにより、小野薬品は抗体医薬を創製するために必要な業界トップクラスの最先端技術を取得したことになります。ライガンド社は、今後も OmniAb[®] 技術を提供することで抗体医薬に取り組む研究開発型製薬企業のニーズに応え続けていきたいと考えており、OmniAb[®] 技術のパートナーが世界中に拡大していくことを期待しています。」と述べています。

OmniAb[®] について

OmniAb[®] は、ヒト型の単一特異性または二重特異性抗体を作製するための、3種類の遺伝子改変動物に関する基盤技術です。OmniRat[®] はラットを使用してヒト型単一特異性抗体を作製する業界初の技術です。OmniRat[®] は、多様な抗体レパートリーを有する完全な免疫システムを持ち、野生型のラットが産生するラット抗体と同じ効率で、ヒトのイディオタイプを有する抗体を産生します。OmniMouse[®]はOmniRat[®]を補完し、抗原エピトープの認識可能な範囲を広げます。またOmniFlic[®]は完全ヒト型の二重特異性抗体を作製するために、固定した軽鎖を作製するように遺伝子を改変したラットです。これらの遺伝子改変動物は、特許技術であり、当社が他社からの干渉を受けず幅広く事業を展開することを可能にするとともに、高い親和性や特異性、発現効率、溶解性、安定性を持った完全ヒト型抗体を提供することができます。

ライガンド社について

ライガンド社は製薬企業の創薬研究や医薬品開発を支援する技術を開発・取得することを中心に事業を展開するバイオフーマ企業です。ライガンド社の事業モデルは、バイオテクノロジー企業や製薬企業が創薬研究や医薬品開発を低コストで効率よく行うための機会を提供することを目指しています。ライガンド社が有する創薬、早期段階の医薬品開発、製剤化などの技術を製薬企業に提供することでライガンド社の売上を最大化します。たとえば、同社が特許を有する **Captisol[®]** 基盤技術は薬剤の溶解性と安定性を最大化するように化学的に改変したシクロデキストリンです。また **OmniAb[®]**は、ヒト型の単一特異性または二重特異性抗体の創薬に使用される遺伝子改変動物に関する基盤技術で、同様に特許を有しています。ライガンド社は、**Novartis、Amgen、Merck、Pfizer、Celgene、Gilead、Janssen、Baxter International、Eli Lilly**など世界トップクラスの製薬企業とライセンスその他のさまざまな形態で提携しています。

詳細情報はTwitter@Ligand_LGNDをご覧ください。

以上

<本件に関する問い合わせ先>

小野薬品工業株式会社 広報部

TEL : 06-6263-5670

FAX : 06-6263-2950